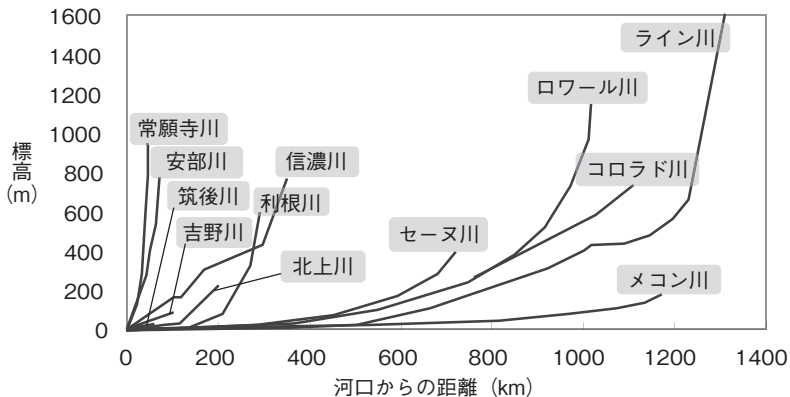
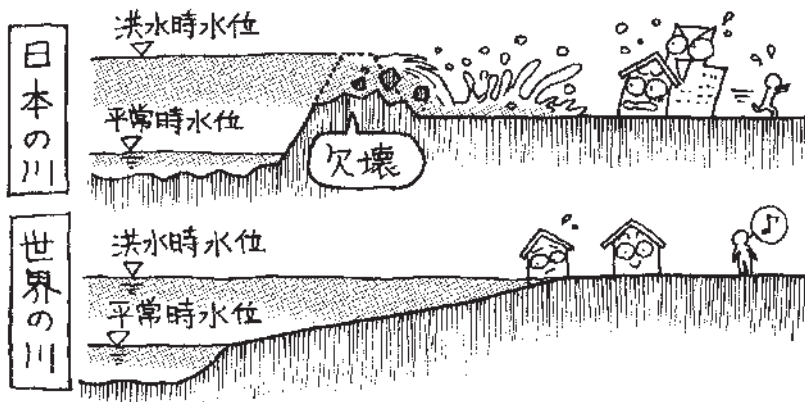


日本の国土の何倍もあるような世界の大河の洪水はどのようなもの？

日本の川は急流が多く、長さも短いために、山に降った雨は一気に川に流れ込み短時間のうちに水位が高くなります。ヨーロッパのライン川などでは、上流で洪水となってからそれが下流に押し寄せるまでに何日間もかかるため、川の水はゆっくりと増えていき、避難などに余裕があります。日本の川の洪水は大きな川でもせいぜい1~3日程度で終わるのに対し、ライン川の洪水は数週間続くこともまれではありません。

また、日本の川沿いの土地は大きな堤防によって守られています。洪水時の水位は周辺の土地よりも高くなるため、ひとたび堤防が壊れた時は激しい水流に襲われることとなります。しかも都市の多くはこうした低い土地に位置しているため、家が流されたり、水につかたりする被害も大きくなります。これに対し、欧米の大河川は、最も地盤の低いところを流





れ、都市の大部分は洪水時の水位よりも高いところに立地しているため、洪水被害は小さくなります。

たとえば、日本では洪水による氾濫が想定される地域に人口の約半分、資産の3/4が集積していますが、アメリカでは人口の約1割しか居住していません。

世界で最も大きな流域を有する川は、南アメリカを流れるアマゾン川ですが、その流域面積705万 km^2 は、日本の国土面積の18倍を超え、日本最大の流域をもつ利根川と比較すると実に420倍になります。

昭和22(1947)年のカスリン台風の時、利根川の洪水流量は1万7,000 m^3/s に達したものと推定されていますが、実際にアマゾン川の洪水の記録を見てみますと、利根川の12倍ほどの20万 m^3/s 程度にすぎません。

1995年1月に記録的な大洪水と騒がれたライン川でも、その流域面積は利根川の10倍を超えるにもかかわらず、洪水流量は1万2,000 m^3/s と、利根川より小さくなっています。

一般に、洪水の規模は、流域面積や雨の量などによって決まりますが、日本と欧米の違いは、地形的な条件などがおもな要因と考えられます。